

常任委員会報告

4月以降の委員会で左記の通り質問をしました。質問に対する理事者(市役所)の回答、他の議員の皆さんとの質疑など、ぜひ左記のQRコードより動画をご覧ください。

私の担当は文教はぐくみ委員会、文化市民局、教育委員会、子ども若者局の3つの部局担当です。



① 文化市民局への質問

市の文化事業について

(5月8日)

▼ Arts Aid KYOTOなど
条城での桜のライトアップについて、
そして収益が文化財の保存に役立つ
いるだろうか? そんな視点で質問



▼ Arts Aid KYOTOなど
条城での桜のライトアップについて、
そして収益が文化財の保存に役立つ
いるだろうか? そんな視点で質問



▼ Arts Aid KYOTOなど
条城での桜のライトアップについて、
そして収益が文化財の保存に役立つ
いるだろうか? そんな視点で質問



営されていて、入場料と来場者数からすると1億円以上の収益かと思うが経費を差し引いた収益は株式会社ネイキッドのものになるのか? 収支報告は来る? 収益の何割かは二条城の運営保存などに活用されている?

今年度の会場では、スポンサー宣伝でディズニーの「白雪姫」のプロジェクションマッピングがافتた。これは二条城が契約されたのか? 株式会社ネイキッドか? 世界遺産の二条城にはそぐわない内容では? プログラムのチェックはされているか? プログラムについては市民からの感想や意見をしっかりと聞く仕組みを作り、プラッシュアップしていただきたい。

▼ 会場の芝生エリアが有料入場となっていた。今年度から試験的に始めたられたということだがこちらの主体は二条城? 株式会社ネイキッド? 入り口に「飲み物を買ったら芝生内に入れます」という看板があつて、公共の施設内ではこれはどうかと思う。全体的に市民割引も無いし、市民への還元の視点でもう少し考えてもらいたい。

▼ Arts Aid KYOTOの2024年度の寄付総額は1億5,619万円。内訳は二条城のライトアップもされている株式会社ネイキッドが複数の企業から1億円を集められたということでかなりの割合を占めているが特定の事業者だけでなく、広く市民レベルでの芸術振興に役立つているか? Arts Aid KYOTOは事業認定型と通常支援型に分かれている、事業認定型は21件。認定を受けた事業者がご自身で寄付を集め、その寄付が一旦、京都市に入れる。その70%を補助金として事業者に還元する仕組み。寄付された方は税制優遇を受けられる。残りの30%の使い道は? 事業者に還元する仕組み。寄付された方は税制優遇を受けられる。残りの30%の使い道は? 事業者に還元する仕組み。寄付された方は税制優遇を受けられる。残りの30%の使い道は?

* Arts Aid Kyotoとはふるさと納税を活用し、アーティストなど文化芸術関係者の意欲的な活動を社会全体で支え、持続的な文化芸術の発展を目指す京都市の基金。



くが古い人工芝から出ていることがわかつてきました。無償譲渡はやめて産業廃棄物として処理すべきという視点で質問をしました。

▼ 昨年、環境福祉委員会でも質問をしたが、古い人工芝の無償譲渡について、改めてお聞きしたい。近年の調査により、マイクロプラスチックの発生源の一つが人工芝であることが明らかになってきた。人工芝がすり減つて細くなり、空気中を漂つたり、雨で流出して排水溝などから最終的に海へと流れ出すことが確認されている。環境省の令和5年度の調査結果によれば、古い人工芝から年間約240トンのマイクロプラスチックが海洋に流出しているという。環境省からも古い人工芝は産業廃棄物として処分をしてくださいというガイドラインが出ている。今回、人工芝を剥離し運搬する事業者さん選定の際にはマイクロプラスチック流出防止についてどのように確認をされたのか?

▼ 人工芝を作っているメーカーも努力をされていて、非常に強度の高い人工芝の開発などもされています。自治体と組んで、フィルターを設置して流出調査をされている業者さんもある。人工芝は

水をはじくためにフッ素化合物、PFASを使っているのと、雨水が降ると流れしていくので、地下水の汚染も気になるところ。また学校の方で、アレルギーのある方、化学物質過敏症の方は実際にはなかなか体育競技ができなかつたという声を直接伺つたりしている。

古い人工芝譲渡はリサイクル、経費節減の観点では喜ばれてきた

が降ると流れしていくので、地下水の汚染も気になるところ。また

▼ 京都市は10年ほど使用した古い人工芝を希望する団体に無償譲渡しているが、最近の調査で海洋に流出するマイクロプラスチックの多

くが古い人工芝から出ていることがわかつてきました。無償譲渡はやめて産業廃棄物として処理をしていただきたい。

▼ 京都市の人の権教教育について計画書が作成されてそれに沿つて進められており、学校ごとに違うよう

ます。人権教育の重要性を確認する

ました。

② 教育委員会への質問

京都市の人の権教教育について

(6月25日)

▼ 7/2【みやこめっせ IVS2025 7/2-4 in KYOTO】
「日本最大級のスタートアップカンファレンス」というこちら。予算特別委員会で産業観光局担当なので見学ツアーに参加してきました。起業家と投資家、起業家同士、学生さんなどの交流場として大変な賑わいでいました。参加費が高額なのに、またびっくり。様々なスタートアップ企業がブースを出させて、複数のステージで同時並行でトークが企画されています。主催は株式会社 Headline Japan、京都府、京都市ということで、市長、知事も登壇。多国籍、多文化、多言語でした。世間では日本人優先的な排外主義が広がってきていたのか? と思いつかや、ビジネスの場では普通にグローバル思考なのかな…、社会は簡潔に語れるほど単純ではない。スタートアップ支援は行政のやることなのか? 行政がやらなくても潤沢に資金が集まつてくる場なのではないのか? という目線で見学に伺いましたが、この場に集う方々の熱気は想像を超えて、その価値観やいかに? と、こちらの目線が単純でなくなったのでした。



▼ 7/18【世界人権文化研究センター】
京都市立芸術大学の7階にあるこの施設。京都府と京都市と商工会議所が出資しています。草の根プロジェクトの仲間と、京田辺市議の吉高さんも一緒に視察に伺ってきました。日本のみならず、アジアでも珍しい人権の研究施設で、現行憲法や国連の世界人権宣言の理念に則って運営されています。図書コーナーは、貸し出もしもしてくださいますよ。映画の上映会や講演会、市民講座もされていますので、チェックしてみてください。「選挙戦の中で外国人排斥など差別的な言説が目立っています。日本ペンクラブなどが声明を出されていますが、こちらの研究所からは出されないですか?」と質問しました。声明は出されないのだそうで、残念です。人権尊重の道半ばで、ここにきて人権の定義そのものが危うい中、「ここは研究機関なので」と言っていないで、どんどん役立ってもらいたいものです。



▼ 6/11【京都市人権資料展示施設 ソラッティ千本】
京都市北西部に位置する千本地域において、同和問題をはじめとして広く人権問題を学習する資料館として1994年に開設されました。「ソラッティ」とは、「つらって」(一緒に連れ立っての意)という言葉がもとになっているそうです。展示室では、千本地域の歴史・教育・まちづくりをテーマとして、この地の先人たちの取組、地域で行われている様々な活動等を、古文書や写真、パネル、模型などが展示されています。



▼ 7/3【交通局見学視察】
まずは地下鉄竹田車両基地へ。広い! 車両点検、整備、洗車、車輪の凸凹を削る作業など、日々、安心安全な運行のためにたくさんの職員さんが働いておられます。乗せていた新型車両にはパワーフリーで乗れる車両ができており、京都市の特産品の展示がされていたり、随所に北山杉や組紐が使われていたりなど、様々な工夫がされています。車両の屋根部分も初めて拝見。暑い中でお仕事をされる職員さんの健康への配慮もされながら、事故がないよう、1週間に一度の点検、2ヶ月点検、4ヶ月点検など綿密な点検がされています。午後からは市バス九条車庫に伺いました。京都の市バス、観光混雑地域はベテランの運転士さんが受け持つおられるのかと思ったら、新人の方でも21日間の研修(指導員さんが同乗される、ニーズがあれば研修延長をされる)後は、新人の方もお一人で運転をされるということです。当た前に乗客の安全安心のためにプロとして矜持を持ってお仕事をされていて、感動でした。公費をしっかり投入して支えてもらいたいものです。



